

事業名	健康保険組合によるバイオシミラー普及のモデル事業		
主幹健保名	日立健康保険組合		
参加健保組合数	11組合	うち加入者1万人未満の健保数（割合）	4組合（36%）
コンソーシアムの特徴	先行バイオ医薬品を処方されている加入者を対象としたバイオシミラーの普及事業		

エグゼクティブサマリー

背景・目的

【背景・課題】

- ・医療費は年々増加傾向。
- ・ジェネリック医薬品の普及は進めてきたものの、置き換え率が高止まり。

【バイオシミラー普及事業の課題】

- ・バイオシミラーは他保健事業と比較して対象者が少なく、知見の蓄積・標準化が成されにくい。
- ・そもそも健康保険組合としてバイオシミラーに関する知見が少ない。

【目的】

- ・複数の保険者でコンソーシアムを組成し、保険者としての役割を整理したうえで、バイオシミラー普及による医療費適正化を推進する。
- ・品目拡大も見据え、保険者が取り組むバイオシミラー普及の保健事業モデルを構築する。

事業内容

【実施内容】

1. バイオシミラーに関する共同勉強会の実施

【参考】保険者に求められるBS普及啓発の取り組み

事業背景_バイオシミラーの薬剤費削減効果

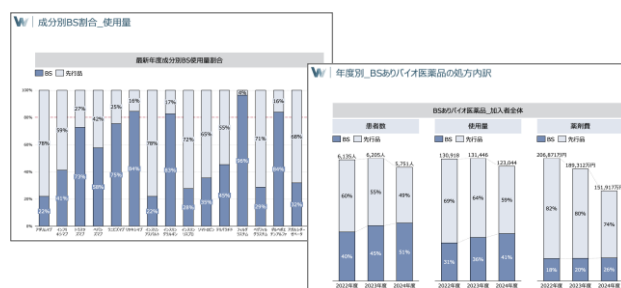
先行バイオ医薬品の後発品、バイオシミラー

ジェネリック医薬品とバイオシミラーの相違点、類似点

シナリオ別の普及率

バイオシミラーの普及率

2. レセプトデータを用いた共同分析



3. 対象患者に向けた周知啓発

【アンケートで確かめよう】

このご案内は、現在バイオ医薬品をご処方されているご用命された方へ向けられています。

【バイオシミラー】

約6.6億円 約2.5億円

効果・成果

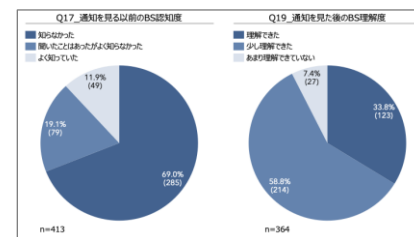
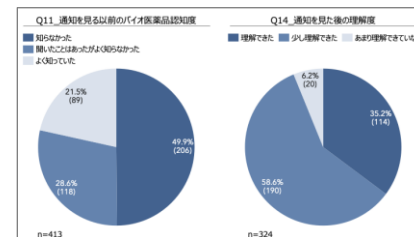
【アウトプット】

- ・年5回の共同勉強会の実施
- ・保険者横断のレセプトデータ分析
- ・共通の患者向け周知啓発資材作成
- ・対象患者への周知啓発通知発送（1,817枚）

【アウトカム】

- ・通知対象者の処方状況および医療費適正化効果（令和7年度レセプトデータ分析のため、令和8年7月以降に効果測定予定）
- ・対象患者のバイオシミラー理解度向上（アンケート回答数：448回）

【参考_患者向けアンケート回答結果_抜粋】



1. 目的

保健事業としての目的

バイオシミラーの使用促進による医療費適正化および加入者にとって費用対効果の高い医療サービスの提供に向けた**保険者としての立ち位置・役割を理解する**ことを目的とする。

また、今後の品目数の拡大も見越し、**保険者が取り組むバイオシミラー普及の保健事業モデルを構築する**ことを目指す。

共同事業としての目的

11健康保険組合/総加入者数約120万人によるコンソーシアムを組成することで、バイオシミラー普及事業に健康保険組合が取り組むにあたっての障壁である「**利用対象となる加入者が少なく、小規模・個別対応になりがちであり、知見の蓄積・標準化が成されにくい**」という課題を解消する。

2. 事業内容



■ 共同勉強会

- ・バイオシミラーの一般的な知識・情報
- ・外部専門家や医療機関の現場医療者から知見のインプット等



■ レセプトデータ分析

- ・バイオ医薬品とバイオシミラーの使用状況の可視化
- ・医療費削減効果等の可視化
- ・周知啓発通知対象者の抽出



■ 対象患者への周知啓発

- ・周知啓発資材の送付
- ・アンケートの同封

医療費適正化の実現



本事業に取り組むにあたっての前提知識習得

患者向け周知啓発の実施

バイオシミラー普及の保健事業モデルの構築



■ 定期的なコンソーシアム開催

- ・分析結果の共有
- ・施策推進方針のディスカッション

3. 共同事業の運営方針

コンソーシアムの運営方針

- ✓ バイオシミラーの処方・切替への最終判断は医師であることを前提とした保険者としての啓発方針の検討
- ✓ 医療現場への興味・理解
- ✓ 既存の保健事業や業務における保険者機能の見直し
- ✓ 医療データの1次利用（患者・健康保険組合への活用）の徹底

日立健康保険組合（主幹事）
東京電子機械工業健康保険組合
パナソニック健康保険組合
三菱重工健康保険組合
日産自動車健康保険組合
計機健康保険組合
北海道医療健康保険組合
倉敷中央病院健康保険組合
肥後銀行健康保険組合
三菱製紙健康保険組合
檜崎健康保険組合

【協力先】
倉敷中央病院 薬剤部
武藤 正樹 医師

バイオシミラー普及事業
コンソーシアム



- ・事務局運営
- ・レセプトデータ分析
- ・周知啓発通知の設計

4. 主な活動報告

時期	実施概要	備考
5-7月	<ul style="list-style-type: none"> 本共同事業の採択連絡受領後、WHC社と事業進行方針や推進スケジュールを相談・調整 	
7-9月	<ul style="list-style-type: none"> WHC社にて、レセプトデータを用いたバイオ医薬品とバイオシミラーの使用状況や医療費削減効果等の可視化 	
8月4日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回運営ミーティング開催 ➢ 推進方針のすり合わせ、バイオシミラーの一般的な知識・情報のインプット 等 	<ul style="list-style-type: none"> 参加健保数：9 場所：対面/リモート
9月5日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 第2回運営ミーティング開催 ➢ 亀田総合病院 舟越先生とのディスカッションに向けた準備、患者向け周知啓発資材検討 等 	<ul style="list-style-type: none"> 参加健保数：10 場所：対面/リモート
10-11月	<ul style="list-style-type: none"> WHC社にて、レセプトデータを用いた啓発通知対象者の抽出、啓発通知デザインの作成 	
10月14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 第3回運営ミーティング開催 ➢ 亀田総合病院 舟越先生とのディスカッション、レセプトデータ分析結果の共有 等 	<ul style="list-style-type: none"> 参加健保数：11 場所：対面/リモート
11月19日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 第4回運営ミーティング開催 ➢ 啓発通知デザインの確定、患者向けアンケート設計に関するディスカッション 等 	<ul style="list-style-type: none"> 参加健保数：10 場所：対面/リモート
12月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 患者向け周知啓発通知の送付 	<ul style="list-style-type: none"> 送付枚数：1,817通
1-2月	<ul style="list-style-type: none"> WHC社にて、患者向けアンケートの集計 	<ul style="list-style-type: none"> 回答数：448回
3月4日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 第5回運営ミーティング開催 ➢ 患者向けアンケート結果の共有、各施策振り返り 等 	<ul style="list-style-type: none"> 参加健保数：10 場所：対面/リモート

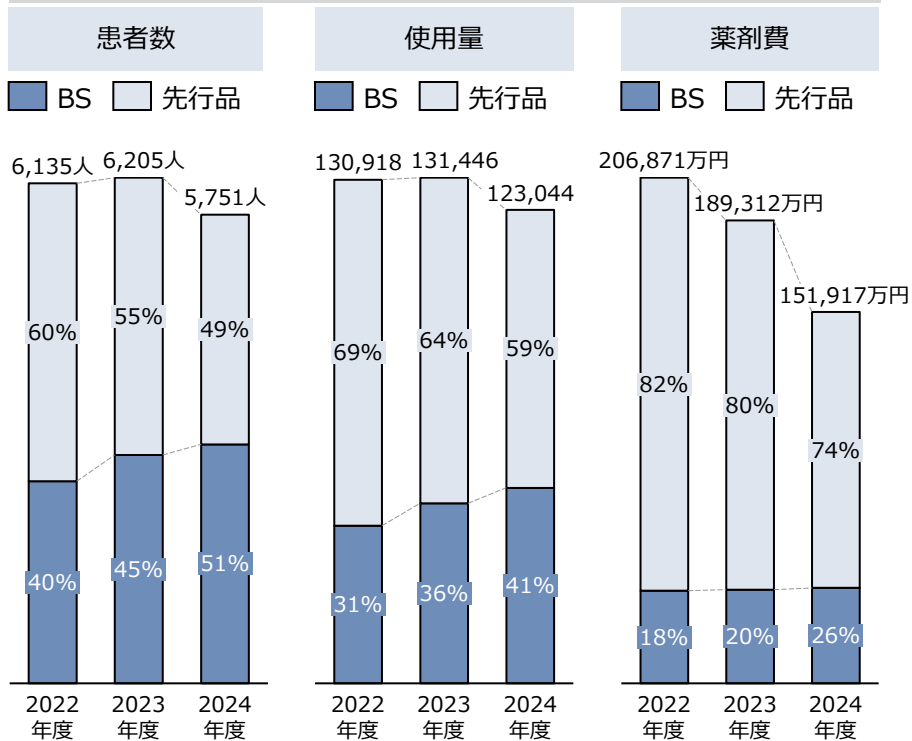
4. 主な活動報告

レセプトデータ分析

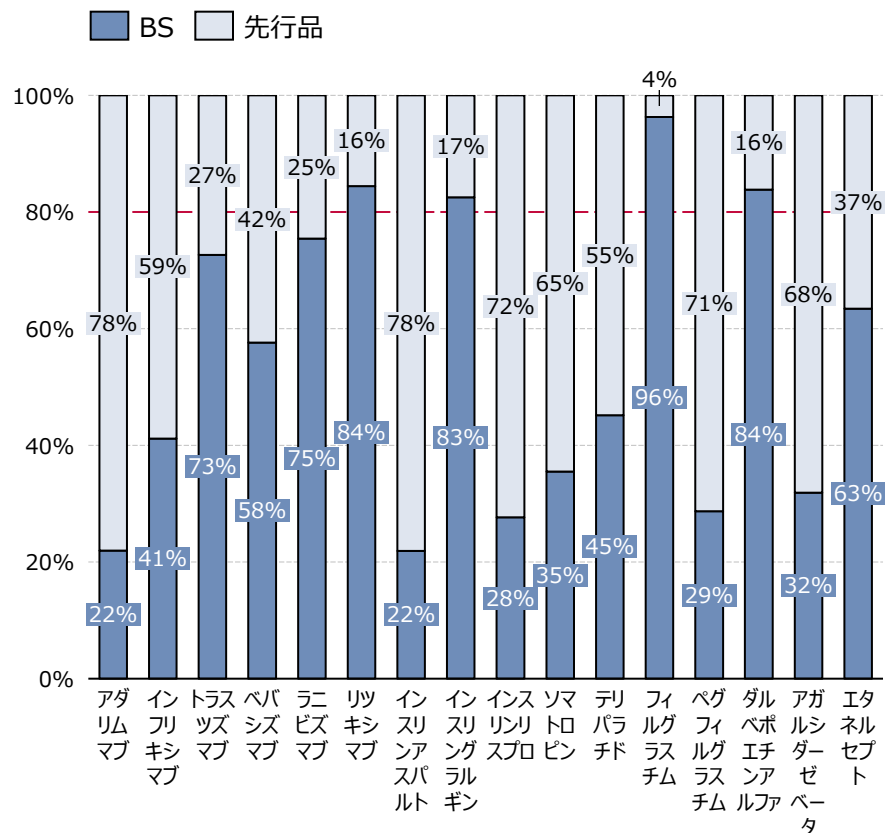
共同事業参加健保のうち、レセプトデータ分析を希望した4健保のデータを集計し、バイオ医薬品とバイオシミラーの使用状況や医療費削減効果等を可視化。

バイオシミラー切替による医療費適正化のポテンシャルが十分にあることを確認。

BSありバイオ医薬品_加入者全体



最新年度成分別BS使用量割合



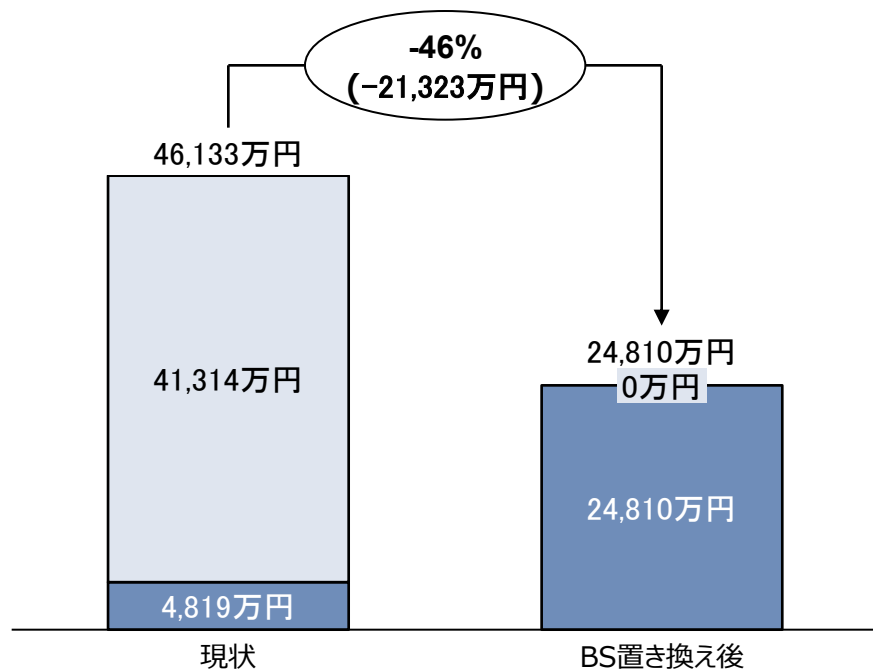
4. 主な活動報告

レセプトデータ分析

成分ごとに想定される医療費削減効果額を算出。
以下はアダリムマブとインフリキシマブの例。

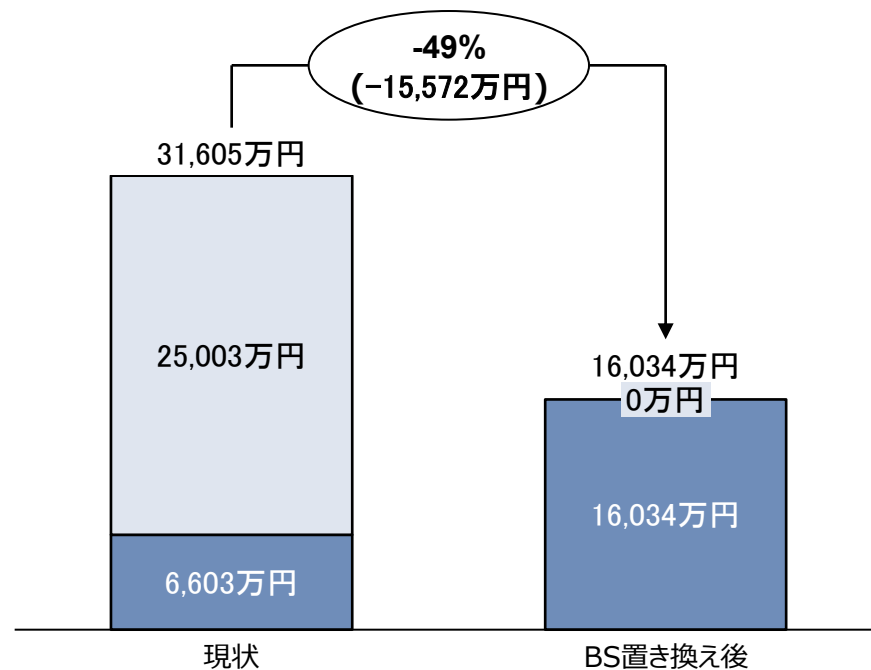
アダリムマブ

□ 先行品 □ BS



インフリキシマブ

□ 先行品 □ BS

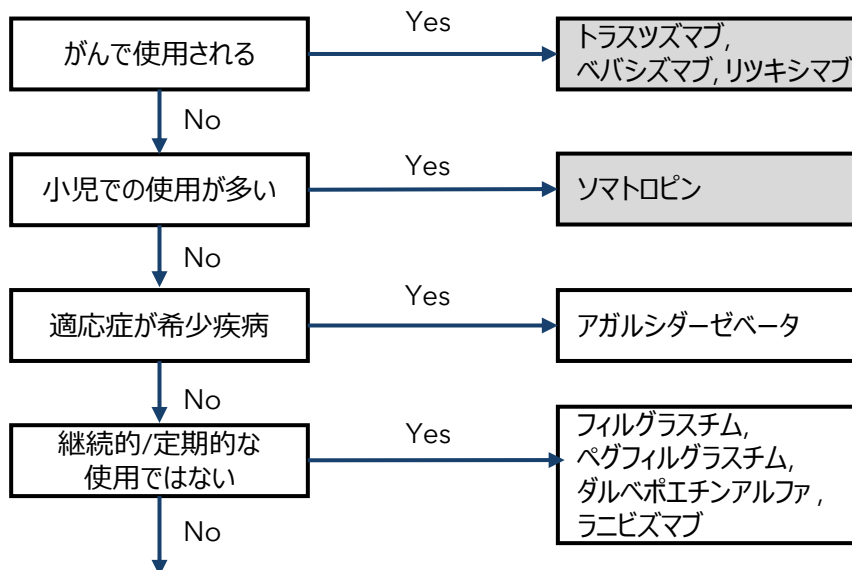


4. 主な活動報告

対象患者に向けた周知啓発

倉敷中央病院 薬剤部の先生による監修を受けたフローに従ってレセプトデータより対象者を抽出。
共同事業参加健保の意見を集約した通知デザインを作成し、25年12月22日(月)より対象者へ通知を発送。

通知対象成分の優先順位検討フロー



通知対象成分

- ・アダルムマブ
- ・インフリキシマブ
- ・エタネルセプト
- ・インスリンアスパルト
- ・インスリングルルギン
- ・インスリンリスプロ
- ・テリバラチド

【抽出条件】

- ・ 24年4月～25年3月の1年間にBS置換え可能な先行品が投与されており、かつ該当成分のBS*が22年4月～25年3月の3年間に投与されていない、かつ最新の適用情報で在籍している18歳以上の加入者 (*仮に別の成分でBSが投与されていても対象とする)

患者向け周知啓発通知デザイン

このご案内は、現在バイオ医薬品をご使用されている・ご使用されたことがある方へお送りしています。

本通知対象の成分は以下です

医薬品名(例)	成分名	主な適応症・薬効	バイオシミラーに 含まれる成分 の割合(%)
ヒュミラ	アダルムマブ	関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎	60.2%
レシカド	インフリキシマブ	関節リウマチ、クローン病、潰瘍性大腸炎	66.7%
エオプリル	エタネルセプト	関節リウマチ	58.0%
ノボラペンD	インスリンアスパルト	糖尿病	23.2%
ラナスタ	インスリングルルギン	糖尿病	22.2%
ヒューVODG	インスリンリスプロ	糖尿病	57.9%
フォオチオ	テリバラチド	糖尿病	32.7%
ジェントロピン	ソマトロピン	骨密度低下を伴わない成長ホルモン分泌不全性低身長症	44.6%

あなたに処方されている
バイオ医薬品の成分はこちら

現在ご使用されている「バイオ医薬品」について

- バイオ医薬品は、微生物や細胞等を使って作られる、非常に大きくて複雑な構造を持つ医薬品です。
- 今までの薬では治療が難しかった病気の効果が高まります。
- バイオ医薬品は、開発・製造にコストがかかるため、薬の値段が高くなってしまい、国民医療費が増えることが問題になっています。
- バイオ医薬品は非常に複雑なタンパク質でできているため、全く同じ構造の薬は製造できません。

ご加入の健保組合の財政健全化にもつながります

バイオシミラーがある
バイオ医薬品の医療費負担*

約6.6億円

バイオシミラー切替による
医療費削減額

約2.5億円

少しでも興味を持たれた方は、
選中の担当医師にご相談ください!

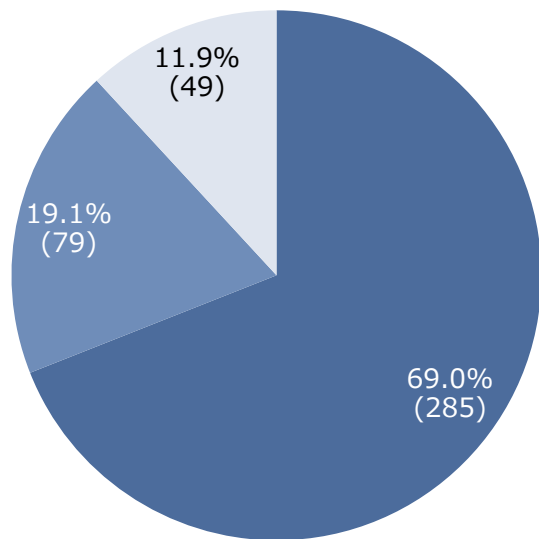
4. 主な活動報告

患者アンケートの取得

周知啓発通知に、バイオシミラーの認知度や利用意向、利用に向けた不安要素の把握を目的としたアンケートを同封。本事業によってバイオシミラーの認知度が向上し、利用意向も高水準であることを確認。

Q17_通知を見る以前のバイオシミラー認知度

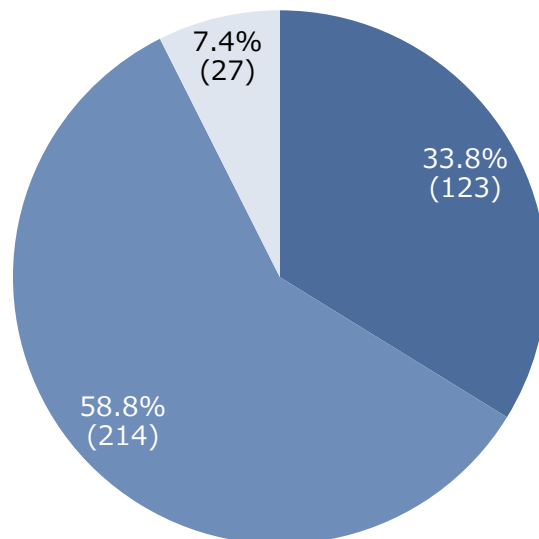
- 知らなかった
- 聞いたことはあったがよく知らなかった
- よく知っていた



n=413

Q19_通知を見た後のバイオシミラー理解度

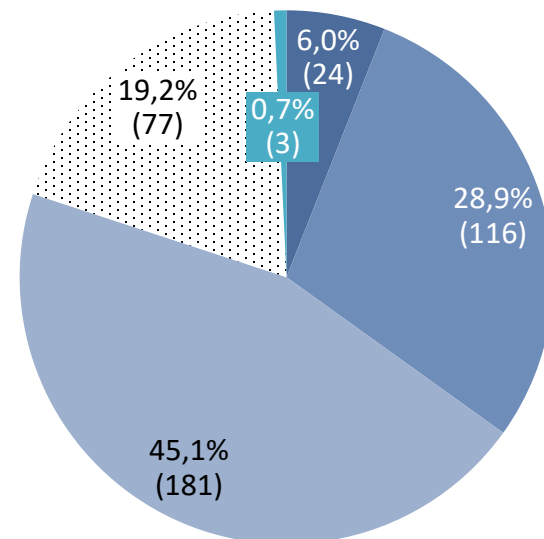
- 理解できた
- 少し理解できた
- あまり理解できていない



n=364

Q30_バイオシミラーの利用意向

- すぐにでも変更したい
- 機会があれば変更したい
- 変更を検討してもよい
- 変更したくない
- すでに使用している



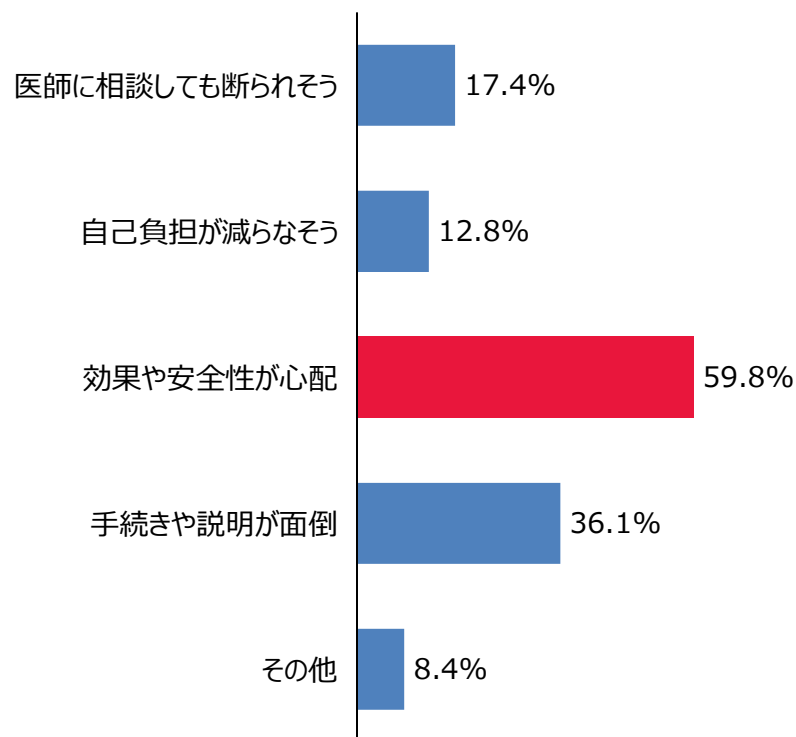
n=401

4. 主な活動報告

患者アンケートの取得

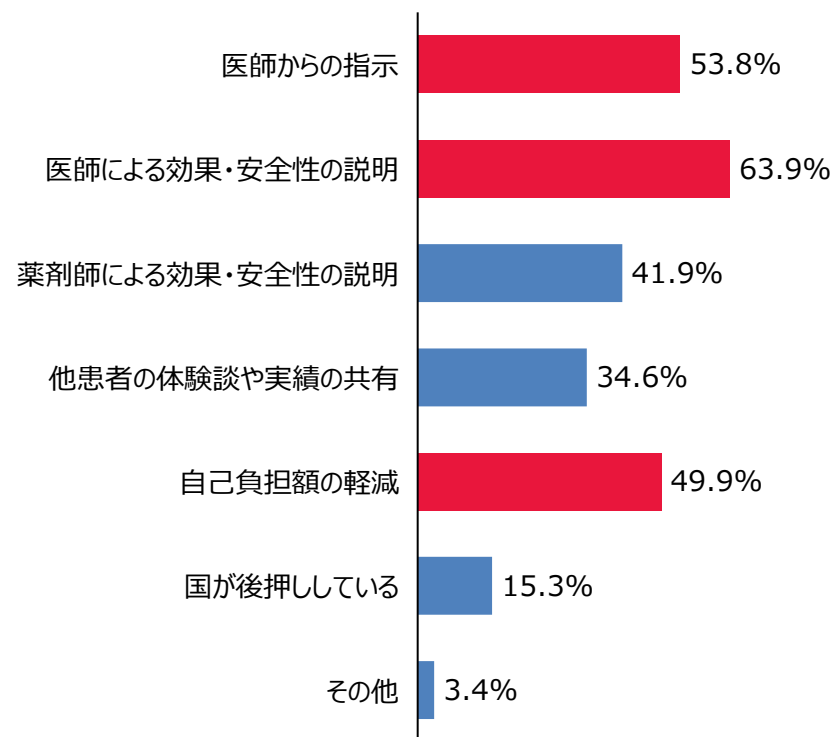
利用意向こそ高いものの、バイオシミラーの効果や安全性に不安を持つ患者は一定存在。
また、医師からの情報提供や自己負担額の軽減が切り換えの促進に繋がる。

Q34_切り替える際の不安や懸念



n=321

Q35_どのようなサポートや情報があれば安心か



n=413

5. 成果報告

<保健事業としての成果>

対象者抽出・通知作成 ナレッジの習得

- 令和6年9月30日に公表された「後発医薬品の使用に係るロードマップの改訂について」に従い、特定の使用者を念頭においたバイオシミラー普及啓発事業を実施するための分析ロジックを構築した。
- 同様に、対象患者のバイオシミラー理解度を高めることが可能な啓発資材を作成した。

周知啓発通知の発送

- 対象患者に対しバイオシミラーに関する周知啓発通知を実施し、理解度を高めることができた。
 - 発送枚数：1,817枚
 - 発送時期：25年12月22日(月)

アンケートによる実態把握

- 周知啓発通知に同封したアンケートの回収によって、利用意向や利用に向けた不安要素を把握でき、バイオシミラー普及啓発に向けた保険者としてのアプローチ方法を明確にすることができた。
 - 回答数：448回
 - 回収時期：25年12月22日(月)～26年1月9日(金)

<共同事業としての成果>

母集団の確保

- 11健康保険組合・総加入者約120万人規模で共同事業化したことで、データ数や対象患者数(母集団)を確保することができ、1組合では対象者が少なく事業が成立しにくいという課題を解消することができた。

知見の集約・共有

- 共同運営のもとで知見を集約し、論点整理・優先順位付け・方針決定を参加健保横断で行うことで、健康保険組合としてバイオシミラーに関する知見が少なく事業実施ハードルが高いという課題を解消し、足並みを揃えた推進を実現した。

標準化・再現性の確立

- 対象者定義・抽出方法や啓発通知デザインを確立の上で共通化することができ、バイオシミラー普及の保健事業モデルを整備することができた。

6. 今後の事業運営方針

令和7年度の共同事業の事業結果を踏まえ、今後の事業運営方針を以下の通り実施する

共同事業（コンソーシアム）の継続・拡大



- データ数や対象患者数(母集団)を確保・拡大するため、共同事業(コンソーシアム)を継続・拡大する。
- 共通方針・共通設計のもとで一斉に取り組むことで、保険者によるバイオシミラー普及の取組を統一的に推進する。

25年度事業結果の分析（レセプトデータ）



- 周知啓発通知を発送後の対象者の処方状況をレセプトデータより分析する。
- 使用状況・対象者特性・普及余地を把握することで、26年度の対象者抽出条件・施策設計に反映する。

対象患者向け周知啓発の強化



- 加入者のバイオシミラー認知・理解の定着を目的に、周知啓発資材の発信頻度を高め、継続的な啓発機会を創出する。
- 医師からの情報提供がバイオシミラー利用に繋がることから、医療機関と連携した患者向けセミナー等の実施を検討することで、対象患者の不安解消と理解促進を図る。

関係者との情報連携の強化



- 外部有識者や医療機関との情報連携を通じて、バイオシミラー普及に向けた課題や最新動向を把握する。
- 得られた知見を生かし、保険者として実行可能な範囲でバイオシミラー普及事業の実効性を高める。